



のブリッジ余談（第85回）

ジャンプシフトレスポンス

2016.8.19

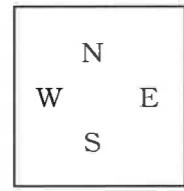
先日日本ブリッジ教師会監修の「5枚メジャー基礎コース」を改めて見ていたら、レスポンスの章に非常に強いハンド（19pts以上）は「ジャンプシフトしてパートナーに途中でパスされないようにします。（p15）」と書いてありました。そういえば、ブリッジを習い始めた頃は19pts以上ではなく16pts以上でしたが^{*1}、強いハンドを表すと教わりました。だが今これを使っている人は見かけない、皆ウイークですと言っていますね。なぜなのでしょうか？昔はジャンプシフトはストロングハンドでスラムを考えているということになっていましたが、このようなハンドは1年に1回も出てこない、むしろ普通はレスポンスしないような弱いハンドを示すのに使おうとエキスパートが考えるようになったのです。しかしながら、私はこの弱いハンドを示す機会も1年に1回も出てきた記憶がありません。50年のブリッジ歴でもほんの1、2回だったと記憶しています。皆さんはどう思いますか？ウイークジャンプシフトが出てきたのはいつのことでしたでしょうか？両方も滅多に出てこないですから、ビッドの無駄遣いと言えましょう。ハンドの種類は天文学者的数あるにもかかわらず、ビッドシーケンスは限られています。したがって利用可能なシーケンスは出てくる可能性があるものに使う、しかもそれは弱いハンドでなく強いハンド向けに使うように決めた方が優れていると思います。弱いハンドのために精密なコンベンションを使っても、試合の勝敗に影響を及ぼすことが少ないので、強いハンドのために使った方が勝敗の帰趨に寄与するところが大きいからです。

さてなぜ19pts以上となっているのでしょうか？オーブンが13pts以上ですから合計で32pts以上になる点という意味で19ptsと定められたように思えます。しかし絵札合計点だけでスラムのありなしを判定することは少なく、まずフィットしているかが最初で、それからどれだけトリックが取れるかを判定してゆくのが常道です。ジャンプシフトレスポンスするハンドは、オープニングストートとフィットしていく、オープニングハンド以上の強さがあり、さらにサイドに良いソリッドスーツがあるとき、それをジャンプシフトレスポンスします。これが効果的です。

この方法をさらに延長して考えるとフィットジャンプ（4枚サポートと良い5枚ストート）に使うのも効果的です。

左に極端な例を示しましょう。先

Neither Vul	♦J654
Dealer S	♥KQ10754
	♦86
	♣8
♦92	♠-
♥985	♥J6
♦J1092	♦AKQ7543
♣10532	♣KQJ4
	♠AKQ10873
	♥A3
	♦-
	♣A976



日の町田SRR&ペアで出てきたハンドです。NS側に簡単に7Sができますが、到達しているペアは皆無でした。それどころか6に到達したペアはわずか1ペアでした。Sから2Cで開けてもいいのですが、1Sとオープンしたとき、Nがフィットジャンプ3H（スペードサポートと良い5枚ハートを示す）というとSからは13トリック（S7+H5+C1）見えるのですぐに7Sとビッドできます。なお2Cで開けたときはどうなるでしょうか？2C-2NT（=Hポジティブ）；3S-4Sとなって、SからNのハートがKQの5枚あるという確信が持てれば7Sと言えますが6で止まるかも知れませんね。このようにフィットジャンプはなかなか有効です。

レスポンダーのジャンプシフトは、このほかにG I J S（Game Invitational Jump Shift）と呼ばれる方法が最近現れてきました。2/1GFシステムでもスタンダードシステムでも扱い方が困る10-12点位のレンジのハンドを最初のレスポンスでジャンプして示すというものです。♠KQ10973♥2♦A1074♣J86を持っていて、パートナーが1Cとオープンしてきたときに、普通では1Sとレスポンスしますね、でもリビッドが2Cだったときに3Sと言うしか無くなりますよね。でもこれは高く行き過ぎになるかも知れません。でも2Sというとサインオフですから4Sルーズになるかも知れません。そこでこのようなハンドを2Sとジャンプして示すのです。

これからの時代、ストロングジャンプシフト（S T J S）とウイークジャンプシフト（W K J S）の両方は去り、ゲームインビテーショナルジャンプシフト（G I J S）の時代になってゆくかも知れませんね。

^{*1} ptsとは絵札点とレングスポイントの合計点です（5枚メジャー基礎コースp5参照）